

---

# スマブラパラダイス！

ダイヤ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

スマブラパラダイス！

### 【ノード】

N1962N

### 【作者名】

ダイヤ

### 【あらすじ】

スマブラメンバー+ がいろんな生活を繰り広げる！…時には事件が起こり時には恋…そしてケンカ…そんなスマブラワールド！またキャラ崩壊があるのでキャラ崩壊が嫌いな方は気をつけてください

## 始めに（前書き）

始めての投稿です！！

始める

ダイヤ「何だかいきなり始まつたー！」

ソニック「何がいきなりだよ」

マリオ「そりだよー！小説書くまでの道のりが長すぎんだよー！」

ソニック「この機会音痴ー！」

ダイヤ「うつせーなー始まりでグチグチグチグチよおしかたねーだろこちらと事情があるんだよ」

ソニック「ゲームやつてるだけだろーー！」

マリオ「絶対すぐネタ切れてストップするよ」

ソニック「絶対つまらないつて殺到するな」

ダイヤ「始まりでそんなに言つなーー書く気が失せるーー」

ソニック マリオ「作者が言わせたんだろーがーー！」

ダイヤ「…」

次回キャラ紹介！

始めに…（後書き）

感想待つてます

## キャラ紹介（前書き）

キャラ紹介！

## キャラ紹介

この小説に出るキャラです

マリオ お馴染みのヒーロー金にがめつくて町に変な田で見られがち  
ルイージ 永遠の二番手 酷い田に会いやしが意外と町に慕われ  
ている

ピーチ キノコ王国のお姫様さらわれては助けられるを繰り返す怒  
ると怖い

クッパ 亀の大王いつもマリオにボコボコされていの 足が遅い

ヨッシー マリオの相棒の恐竜 大食いでカービィと気が合つ

ワリオ 下品でメタボな人皆にボコボコにされやすい

ドンキー バナナが好きなゴリラ ディディーとなががいい

ディディー ドンキーの相棒身が軽い

リンク ハイラルの勇者ゼルダの事が好き

ゼルダ&amp;シーク 一つの顔を持つリンクの事が好き

ガノンドロフ 皆に気味悪がられてる人 足がむちゃくちゃ遅い

トゥーンリンク もう一人のリンク かわいい

サムス バウンティハンター中は女性 怒ると怖い

ピット 天使の男の子 イタズラ好き

ポポ&amp;ナナ とても仲良しで一人の邪魔をすると大変な事になる

ロボット 心を持っているロボット 頭がいい

カービィ ピンクボール ヨッシーと氣が合いなんでも吸い込む

メタナイト 仮面の騎士 仮面をとるとかわいい素顔が..

デデデ 太っている大王 飛ぶことができる

オリマー サラリーマン ピクミンを扱うのが得意

フォックス 雇われ遊撃対ファルコと仲がいい

ファルコ 口が悪い鳥 フォックスと仲がいい

ウルフ ファルコと仲が悪いオオカミ 射撃がうまい

ファルコン 足が速いレーサー とても陽気で明るい

ピカチュウ かわいいポケモン サムスになついてる

レッド 三体のポケモンを持っているトレーナー

ルカリオ 波動の使い手 無口だが優しい

プリン 歌が好きなポケモン とても軽い

マルス 王子様 とても優しくて強い

アイク 肉好きな騎士 無口で無愛想だが優しい

ネス 勇気のある少年 超能力が使える

リュカ 弱虫な少年 ネスとレッドと仲がいい

ウォッチ ペラペラな人 皆の大先輩

スネーク 傭兵 危険なものを沢山持ち歩いている

ソニック 音速の針鼠 この小説の主役ポジションにいる

シルバー + の人(?) 正義感がある 未来からきた針鼠 超能  
力が使える

シャドウ + の人(?) クールで無口 たまにキャラが壊れる

ダイヤ 作者 いきなり現れる人

## キャラ紹介（後書き）

この小説はソニックとシルバーとシャドウの出番が多いです

いきなり

マリオ「…」

スネーク「…」

ソニック「…」

ダイヤ「何ずっと黙つてんだよめーら

ソニック「ん…ちょっと題名のことを…」

ダイヤ「それで？」

マリオ「なんなの？この何処かのいかれた人がちょっとしたパート  
ィーとかでもいちいちつまらないワンパターンのギャグをやるよう  
なこのスマブラパラダイスって題名」

ダイヤ「無駄に具体的で何を言いたいか伝わんねーよ」

スネーク「簡単にはネームセンスがないと言っているんだ」

ダイヤ「悪かつたね」

スネーク「悪い」

マリオ「つてかなんだよいきなりこの変な始まりかた」

ダイヤ「お前らが始めたんだろーが」

ソニック「だつてなあ…」

？？？？「作者ー」

ダイヤ「おお来たかー！」

ソニック「誰？」

シルバー「久しぶりだなー！」

シャドウ「…」

ソニック「何故にお前らーーー！？」

ダイヤ「俺が呼んだ」

マリオ「何胸はって言つてんだよ

ルイージ「いか女なのに俺つて…」

ダイヤ「いのちの方が性に合つただよーーー。」

バキッ ダイヤのキックルイージに炸裂

ルイージ「…（氣絶）」

シルバー「もう少し女の子らしい口調で書いたらどうなんだ？」

ダイヤ「はあー…？（怒）」

シルバー「す…すいません…」

ダイヤ「ふん」

ソニック「でかいきなり作者の出番多すぎたろ」

マリオ「全くだね話が変だし」

ダイヤ「…終」

皆「ええーー？」

こきなり（後書き）

最初からグダグダです…

## 重火器

「マリオ「作者あ」

「ダイヤ「キモイ…」

「マリオ「ひでえな!」

「ダイヤ「悪かつたね で? 何か用?」

「マリオ「ああ… 実は最近変な噂があるんだよ…」

「ダイヤ「へえ、 どんな?」

「マリオ「作者が最近変な物騒なものを持つてると…」

「ダイヤ「あ…これかい?」

「マリオ「(・\_・;)」

「ダイヤ「なんだよその顔」

「マリオ「普通なるわ!」

「因みに今作者が持つているのはC-4爆弾

マリオ「スネークから貰ったのか?」

ダイヤ「ううんマスターから貰ったのを少し火薬を増やしたんだ」

マリオ「恐ろしい…」

ダイヤ「今はこれだけしか持っていないが家にはロケットランチャー  
やらマグナム ライフル マシンガン ショットガン グレネード  
ランチャー 火炎放射…」

マリオ「もういいよーーーってかどんだけ物騒なもの持つてんの?」

ダイヤ「まだ沢山あるのに…（つてか起きこべるのがシルバーかシ  
ヤドウだったら嬉しかったのに…）」

マリオ「聞こえてるぞ」

ダイヤ「なんでシルバーかシャドウ又はソーラークじゃないの?」

マリオ「起きこべるのが怖くてジャンケンで負けた俺がきた」

ダイヤ「うう…」

「マリオ、なんでそんな物を持つてる？」

ダイヤ「マスターの家に火炎放射器持つていつたらくれた」

マリオ「確実に脅しただろ」

ダイヤ「ちょっと火吹いただけだよ……」

マリオ「御愁傷様……」

ダイヤ「もういいか？」

マリオ「あ……しかしまたこんな話とは……」

ダイヤ「またとは失礼なバイオハザードやつてたら思い付いたんだよ」

マリオ「裏話はいいから」

「ひして作者は帰つていきました

重火器（後書き）

物騒  
だ  
：

複起也（複書也）

作者のイタズラだ！

只今朝の6時です（小説の中で）  
ダイヤ「今回はあの人をいきなり起しちゃうと何の反応をするか調べます」

調べるキャラは ソーシクシャドウ シルバー マリオ ルイージ  
です

フォックス「お馴染みのキャラか（+ を除く）」

ダイヤ「なんで選ぶんだよ」

フォックス「声が聞こえたから」

ダイヤ「この事誰かじぶんしたら殺しちゃうよ」

フォックス「ほーーーー誰にも言こまへんー（汗）」

そんなことなでもすはソニックの家

ダイヤ「どうやって起こそうか…ロケットランチャーやりすぎだ  
し…マグナムとかも危ないし…」

銃使つのが危ないと思わないのだらうか

ダイヤ「そうだ」

そしてダイヤが持つて来たのは水の入ったバケツ

ダイヤ「よいしょ（^—^;）」  
ひょいっ ソニックを持った音

ダイヤ「それ」

トボ――――ン――

ソニック「うわああああああああああ――」

水の入ったバケツに頭から突っ込んだソニック物凄い声をあげている

ダイヤ「グッデ（- - ^\*）」

ソニック「何すんだよいきなり！？」

ダイヤ「モーニングコールだよー最高の目覚めだなー

ソニック「最悪の目覚めだーとこらでどこ行くんだ？」

ダイヤ「次はシルバーだよー(^ー^;)」

ソニック「ついていいか？」

ダイヤ「勿論！」

シルバーの家に到着

シルバー「……」

ダイヤ「シルバーは……」

作者が取り出したもの　　バット　ガラス

バットとガラスをシルバーの近くに持つていいき……

ダイヤ「ソニックガラス持つてて！」

ソニック「はいはい」

ダイヤ「せーの」

ガシャアアアアアン!!

バットをフルスイングしてガラスは簡単に割れた

シルバー「うわ!?」

ガラスが割れた音で起きたが割れたガラスの破片がシルバーに!

シルバー「はあ!!」超能力で破片を止めた

ダイヤ「おお!!」れこれ!!

シルバーの超能力を見たくてガラスを割つた作者因みにガラスの破片の被害はソニックも巻き添えになりました

ソニック「…」

ダイヤ「次い」ー

シルバー「何してるかは知らないがついてつていいか?」

ダイヤ「勿論ー。」

シャドウの嫁

シャドウ「……」

ダイヤ「シャドウもつ恋をしてさじやんつまんなー。」（――・。）

シャドウは既に恋をしていた

ダイヤ「じゅあ後ろから。」

作者はやつーとシャドウ後ろに行つた

ダイヤ「ぬりせよーーーーーーーー。」 シャドウ抱きながり（笑）

シャドウ「ひさしー。」

「ニーチク」「シャドウがびつつかるとせー。」

ダイヤ「次はマリオの家だよ—シャドウも行こー」

シャドウ「ああ」

マリオ（ルイージ）の家

マリオ「ニニニ・・・」

ダイヤ「起きるーー！」

作者はマリオに向かって飛び蹴りをした勿論命中

マリオ「…何をする…」

ダイヤ「起こしたんだ感謝しき 最後はルイージだー！」

マリオ「俺も…」

ダイヤ「ダメダメ」

マリオ「…はー」

## ルイージの部屋

ダイヤ「よし！行つてこい針鼠！！」

3人「なにいい！？」

シャドウ「なんで僕達が…」

ダイヤ「速く行け！」

ドンッ！！ ダイヤがソニック達をおした

3人「うわああ…！」

ぐしゃ！

3人はルイージの腹の上にダイブしたその結果ルイージは氣絶した  
(また?)

ダイヤ「さー帰るー(^ー^;)」

3人「はい…」

因みにルイージは5時間後にさましたよー

寝起きや（後書きや）

感想待つてまーす

+ とおはつ(おはづ)

— とお語りだよ —

ダイヤ「ヤバいよ、ネタ切れだよ。」（^\_^）＼

シルバー「書いてんじゃんそして最後が変だよー？」

ダイヤ「ネタ切れをネタにしたのやー。」

シルバー「意味不ー！」

ダイヤ「呼ばなくていいんだよシルバー君（^\_^・）」

シルバー「『めんなれこ』『めんなれこ』」

ダイヤ「まあシルバーなら許すよー 因みにシャドウもね」

シルバー「ソニックは…？」

ダイヤ「時による（ーーーーー）」

シルバー「何故？ソニックファンだろー？」

ダイヤ「そうだけじゃー（ーーーー）シルバーとシャドウに比べると

な～

シルバー「でもお前シャドウが一番好きだったじゃん

ダイヤ「お前は性格が最高なんだ…って俺のオタクぽい話になつて  
るよー！？」

シルバー「確かに読んでる読者様は「何話してんの自分はお前のオ  
タクの話聞きたんじやねーよ」って思われてるな」

ダイヤ「酷すぎるよー！」

読んでくれてこむ旨様誠に申し訳ありません私のオタク話を聴い  
てくれて

シャドウ「話してしまったものは仕方がない」

ダイヤ「シャドウじゃん…」

シャドウ「…」

ダイヤ「何黙つてんのさ」

シャドウ「こや僕は元から…」

ダイヤ「キャラ変えひやー（ーー・）」

シャドウ「すいません…（汗）」

シルバー「ビリードーなキャラ崩壊だな…ってか作者の力って怖え…」

ダイヤ「(><)(><)(ーー・)(ノ・”・)ノ  
」

シルバー「作者壊れたーー?なんのいきなり?」

ダイヤ「即興ネタもきれたゾー!（ ）」

シルバー「その最後の英語やめろーー!変だしー」

シャドウ「やれやれこの作者は…」

バキッ！ ダイヤのキック破裂

シャドウ「…」（痛みに耐えてる）

シルバー「おにぎりがいい。シャドウはやらないんじゃないのか？」

ダイヤ「ソニックと間違えたんだよ」

シルバー「うそだ！」

ソニックは終わった

シャドウ「どうして僕が…」

+ じゆ話 (後書き)

感想待つてます

## 大バトル！（前書き）

なんかいきなり出てきたネタ！！

大バトル！

ダイヤ「えー本日は晴天なり…」

皆「無駄な事はいいから…！」

ダイヤ「ちえ～（――・）」

マルス「はやく続きを言つて」

ダイヤ「はいはい… 今回はマスター &amp; クレイジーの提案で大乱闘するから」

皆「説明テキトオオオ！…」

リュカ「マトモに説明してよ」

ファル」「読んでる読者様に謝れ！」

ダイヤ「皆さんと一緒にした」

マリオ「ばつかやろお…！」

ダイヤ「ぐはーー！」　パンチくらつた

マリオ「マトモに謝れ」

ダイヤ「皆様すいません！！」

マリオ「よしじやあ大乱闘やろー！」

「おお～！」

「あ、その事なんだけば此の戦い書くのぶっちゃけめんどくさいから今回は特別制のステージでマリオ ルイージ ソニック シャドウ シルバーそしてオマケのサムスで戦つよー」

皆「ええ～！～！～！」

サムス「オマケつて…まあ出れればいいか…」「

ミラ・リー「ドーローとかはいいこな~ひいわねて」

オリマー「完璧ソーシャクさん達ひいきされてます特にシルバーさん  
とシャドウさん」

その分ソニックにはイタズラも酷いけどね～

ダイヤ「誰か文句おあり?」

6人以外「ある~~~~~」

ダイヤ「この戦いのルールと俺がキャラのひこきしてることに文句ある?」マシンガン構えてる

6人「あつません!!(汗)」

ダイヤ「じゃあ始めーちょっとまつてー」

皆「何だよー?」

ダイヤ「風呂入ってぐるー」

皆「はあー? (。口。)」

ダイヤ「いめそ (^-^)」

30分後

ダイヤ「スッキリしたー(^-^)」マジではいってきました

フォックス「現実でのマジ話書くなーー！」

ダイヤ「うるせーよ狐が」

# フォックス「」

ダイヤ「じゃあ今度こそ——」

「やつらか…」

總「好」二二二二二二二二

リンク「ちょっと待て作者！」

「無理」

ダイヤ「では次回はバトルです」

皆「絞められたー」

## 大バトル！（後書き）

次回はバトル！

因みに作者は現実世界でもあんな性格です

## バトルだぜ！！（前書き）

今度こそバトルです（手抜きですが）

バトルだぜ！！

ダイヤ「今度こそバトル始め！」

6人「よっしゃ～～～！」

マリオ「ファイアボール！」

ルイージ「同じくファイアボール！」

サムス「チャージショット！」

ソニック「ホーミングアタック！」

シルバー「サイコスマッシュ！」

シャドウ「何故僕狙い！？」

ダイヤ「皆シャドウに攻撃だー（^\_^;）」

シャドウ「なんで笑ってるんだグルだろ作者ーー？」

ダイヤ「失礼な、グルじゃないよー（>ーー・・）」

シャドウ「まあ避ければいいんだが

ひょい シャドウが避けた音

ボ―――ン

ダイヤ「シャドウ以外相討ちーーー！」

シャドウ「単純な攻撃だな…」

ダイヤ「んな」と言つてないではやく戦闘に入れよー！  
到すんだよ（ーーー）」

シャドウ「…」

マリオ「簡単に避けられるとは…」

ルイージ「まあ……簡単に当たるとも思わないけど……」

マリオ「つてか簡単に避けるとは作者とシャドウはグルなのか」

シャドウ「避けただけでグルにするな、それ以前に貴様らもグルなのか？」

サムス「たまたまよたまたま」

シャドウ「信じられないな」

ダイヤ「言い争いしてると擊つちやつぱー（<—^・）」 マグナ  
ム構えてる

6人「さあバトルしよう（汗）」

サムス「面倒だから終わらせるわゼロレーザー……」

5人「うわああああああああ……」

-----TTTTTTTTTT-----

他のキャラ「怖え！」

因みに近くにいたマスター&amp; クレイジーも被害を受けたとか

ダイヤ「あー5人が吹っ飛ばされましたー勝者はサムスー」

サムス「やつた！」

ダイヤ「じゃあ吹っ飛ばされた人を探してきてねー！」

サムス「ええー？」

ダイヤ「ん? ( ^ \_ ^ ; ) 」 火炎放射器持つてる

サムス「いってきまーす」

ダイヤ「他の人は?」

他のキャラ達「いってきまーす」

その後全員見つかったが全員が見つかったのは4時間後でした

見つかった順番

シルバー マリオ ソニック ルイージ シャドウ

シルバーはすぐ近くの原っぱ

マリオはバトル場の近くにある公園

ソニックは少し遠い海（笑）

ルイージはかなり遠い山のふもと

シャドウはかなり遠い山の山頂で見つかった（どんなだけ飛ばされて  
んだ）

シルバーとマリオは軽くですんだが海に落ちて溺れかけたソニック  
とかなり遠くに飛ばされたルイージ シャドウはケガの治療が大変  
だったとか（ソニックは落ち着かせるのが）

その夜

ダイヤ「えい！」

バキッ！！ シャドウヒルイメージの傷口を蹴った

## シャドウ「痛！」

ルイージ「痛い痛い！！」

ダイヤ「男なら頑張つて (\* )」

## 連続キック

シャドウ ルイージ「…（氣絶した）」

「——；」

「ダイヤ、シルバーかマリオ蹴らせてー！」

シルバー マリオ「勘弁して…」

ダイヤ「じゃあソーラー…」

ソーラー「やめてくれ」

ダイヤ「じゃあどうしてんだよてめーらー！」

シャドウ ルイージ以外「逆ギレしたーーー！」

ダイヤ「てめーら全員まとめて死ねーーー！」 マシンガン乱射中

30分後その場には気絶した皆と田が覚めて状況理解が出来ないルイージとシャドウがいた

ルイージ「なにこれ…」

シャドウ「僕達が気絶してる間になにがあつたんだ…」

ダイヤ「気にしなくていいよー(^ー^・)」

二人「気にするわー」

ダイヤ「とつあえず今日は寝よー俺はシャドウの所に泊まるから」

シャドウ「何故…？」

ダイヤ「普段はシルバーの所に泊まつてゐるナビシルバー 気絶してゐ  
から」

ルイージ「作者なのに家無いのー?」

ダイヤ「うん」

シャドウ「まあ…」

レウシテー 一日の幕が降りた

バトルだぜーー！（後書き）

感想待つてまーす

## 更新（前書き）

ネタが…そしてサブタイトルが…

「マリオ「おこひら作者」

「ダイヤ「なんだよ」

「リンク「更新が遅すぎた」

「ダイヤ「ネタがないから仕方ないだろ」

「ルイージ「もうひとつの方ではかなり更新しているじゃん!」

「ダイヤ「そりゃあね」

「リュカ「僕達の出番が少ないのに忘れられたらまらないよー…」

「マルス「そつだそつだ! 僕らの出番が少ないのにその上更新も遅い  
なんて!」

「ダイヤ「笑いが取れなかつたら意味がないんだから仕方無いだろ!」

「!」

皆「それでなにだらびつせ……」

ダイヤ「うぬをこなむ前にはあこつらを覗窓だー。」

今作者が描きしているのはソニック達

ルイージ「いやソニックはもうひとつの小説の主役だしシャドウとシルバーもメインだし……」

ファルコ「うつちの身になつてみる」

ダイヤ「なれたら苦労しねーよばか鳥が」

ファルコ「…（…）」

皆「ひでえ毒虫…」

ダイヤ「にしてもネタ切れつて怖いな～

皆「作者の方がもつと怖いよ…」

ダイヤ「…（\*^\_\_^\*）」

皆「ヤバイ！死んだかも…」

ダイヤ「貴様らじこくされ…」

ババババババ…！…！ 作者がマシンガンを乱射している

皆「うわああああああああああああああ…」

ソニック「…作者つてす」いな…（小声）

シルバー「機嫌そこねたら終わるな…（小声）

シャドウ「あこつらみたいにな…（小声）

被害に会わなかつた3人は氣絶してゐる皆を見ていたのでした…

この小説はネタ切れ中は休止となつております

クリスマスー：

## 準備

ダイヤ「皆ー今日はクリスマスパーティーの準備だー！」

皆「少し早くね?」

ダイヤ「まあ氣にすんな」

皆「まあいいか」

## ダイヤ「マスター工ープして」

マスター「おつよー」

シユン！

会場内

ダイヤ「いいだー！」

皆「おおー…」

ダイヤ「ここで飾り付け、料理、飲み物、そつじ等々を調達 準備をしてもらひつ」

皆「はーい」

飾り付け係 ダイヤ ソニック シルバー シャドウ ネス リュ  
カ ポケモン組アイスクライマー

料理係 サムス ゼルダ

リンク ピーチ トレーナー オリマー

飲み物係 フォックス組 カービィ組 余ったマリオ組

そうじ係 余つて いる剣士組 がノン ロボット ウオッチ フア  
ルコン スネーク ピット

皆「飾り付け作者の好きなキャラだけじゃん…」

ダイヤ「ん? (< - >)」

皆「いえなんでも…」

ルイージ「ねえ作者…」

ダイヤ「何?」

ルイージ「パチ姫の料理食べれるの兄さんだけだよ…」

ダイヤ「あ……やべつ忘れてたまあ頑張れ!」

ルイージ「無理無理…」

ダイヤ「そー準備しよー」

「おー」暨「おー」

ルイージ「ええ…シカト?」

ピーチ「行きましょ」

料理係「…はい」

ピーチがキッチンに向かって行くときマリオ以外のキャラは書ざめていた：

次回準備中の…

準備中～飾り付け係～（前書き）

飾り付け係の…

準備中／飾り付け係

ダイヤ「ああして、」  
「うして…」

ソニック「シルバーこれ頼むぜ！」

シルバー「任せろ」

飾り付けは高いところは超能力が使えるシルバー ネス リュカ  
に任せている

プリン「私背が低いから全然手伝えないプリ…」

ピカチュウ「ピカ…」

ルカリオ「まあ仕方ないな。」

ポケモン組も和氣あいあいとしている

ポポ「この飾り可愛い」

ナナ「本当だ可愛い」

アイスクライマーはクリスマスツリーの飾りしながらを話しあつて  
いた

ダイヤ「ネス、これお願ひ」

ネス「いいよ」

シャドウ「リュカ頼むぞ……」

リュカ「うん」

50分後準備が終わつた

ルカリオ「なかなか綺麗だな」

リュカ「そうだね」

ボボ「凄い凄い！！」

ナナ「豪華な感じになつたね」

ダイヤ「よしよしーいいねじやあ少し休憩を…」

ドカー————ン————！

皆「…？」

なんと準備し終わった会場に何かが突っ込んできたお陰で会場はメ  
チャクチャになつてしまつた

ナナ「あー！…せつかく飾ったのにーー！」

シルバー「あーあ会場メチャクチャ…」

シャドウ「何が起つたんだ？」

ソニック「つてか作者がキレイいかが心配だ…」

シャドウ シルバー「確かに…」

ピカチュウ「ピカーー！」

ダイヤ「ん？ あれは…」

そこにいたのは…

皆「ワリオ！？」

ワリオ「痛つて〜」

皆「多分ワリオ死んだな…」

ダイヤ「ワリオ…自分の仕事は？」

ワリオ「他の奴等に任せとけばいいだろ」

ダイヤ「仕事はサボり会場メチャクチャにしやがって……」

ネス「そりだよせつかくやつたのに……」

リュカ「酷いよ！」

ルカリオ「少しじりしめた方がいいらしいな……」

ワリオ「何なんだ！俺がなにをしたってんだ……」

シルバー「反省もしてないとはな……」

シャドウ「……」

皆メチャクチャキレている（当たり前か）

皆「死ねえええ！……！」

皆怒りがワリオにぶつかったなんでワリオがここに突っ込んできた  
かは次回！

準備中～飲み物係～（前書き）

飲み物係

準備中～飲み物係

「ちびは飲み物係

ウルフ「ふう…重いな

デデデ「そうか？」

カービィ「ほ。よ…」

マリオ「…ひかワリオは？」

ルイージ「サボりじゃない？（ - - - ）」

マリオ「チクるか」

皆「勿論」

その時ワリオは…

ワリオ「うおおおおおーーー！」

バイクで爆走していた

ワリオ「準備なんかしてられるかーーー！」

プスン…

ワリオ「いきなりエンジンがいかれたーあーー会場に突っ込めば止まるなーーー！」

作者に殺されるよ？

ワリオ「俺様はカツコいいから平気だ許される」

キモ…

ワリオ「ウルサーーイーーー！」

そして

ドカーーーン！！！！

そして…

マリオ「ダイヤ帰つたぞ～」

ルイージ「ダイヤワリオが…」

マリオ達が見たのはフルボッコそれでるワリオ

マリオ「な～んだチクる必要なかつたか（< - <）」

ルイージ「そ～だね兄さん（< - <）」

メタナイト「しかしどうしてワリオが此処にいるんだ

ダイヤ「カクカクしかじか」

シカクイムーブ「コンテストレビアン ダイハツ～

フォックス「なんか変なナレーターが入つてたけど気にしないでな  
るほどな」

ファルコ「自分だけ楽しやがつて…」

ウルフ「おまけに会場メチャクチャかよ…」

マリオ「俺達も行くか」

皆「ああ

会場メチャクチャにしたことと仕事をサボった事で怒つているひと  
がふえている

ルイージ「僕達も入れて～」

ソニック「ああ～いいよな作者！」

ダイヤ「勿論 セー行くよー」

監「お~ー。」

ワリオ「…(瀕死)」

次回は料理係!

準備中～飲み物係～（後書き）

ワリオはこれからも血祭り

準備中～料理係～（前書き）

料理係です

準備中～料理係～

料理係はリンク　トレーナー　オリマー　ピーチ　ゼルダ　サムスだ

オリマー「出来ました」

ゼルダ「こっちもできたわ」

サムス「同じく」

ピーチ「私もできたわ」

皆「え！？」（。。）

皆が見たピーチの料理は得体のしれないもので食べたら大変な事になりそうだ

ピーチ「どうかしら？」

トレーナー「マツオにプレゼントしなょ。」

マリオはピーチの料理を食べても美味しいと言つゝわば味音痴だ

サムス「さて、メインのケーキを作りますか」

ピーチ「私作りましょうか？」

四四

リンク「ケーキはこっちでなんとかしますから」ピーチさんはなんか好きなもの作つてて下さ」

ピーチ「わかつたわ」

ピーチはキツチンの奥の方に行き……

ドンフ―― ガキツ―― ぐしゃ―― ピワ―― ボキ―― ピロ  
リーン―― ポコツ―― シヤキーンシヤキーン――

謎の音が聞こえてきた

リンク「後半の音がおかしくないか?」

サムス「なに作ってるのかな…」

ペコロ！ ポン！ パンつ！

オリマー「…」

この時皆が思つた

「今日無事に生きて帰れるかな?」

そんな思いを気にせず謎の音は今も聞こえてくる皆が無事に帰れる  
かはクリスマスパーティー本番にわかる

「キッ！ 」



## 早めにパーティー（前書き）

クリスマスパーティー やつ ちや います

## 早めにパーティー

ダイヤ「クリスマスパーティーだよー（^ - ^）」

ソーラー「おー今日はまだ23日だぞーー？」

マリオ「早いよーー」

ダイヤ「いやー実は明日は友達の家クリスマスからかー書けないかもだから…」

シルバー「一日はやく…？」

ダイヤ「そゆー」と

監督「なるほど」

シャドウ「掃除係の話は…？」

ダイヤ「カット（・・・）」

掃除係の人「え！？（。。。）」

ダイヤ「まあネタが思いつかなかつたし……」

皆「流石に可哀想じゃね？」

ダイヤ「うーん……じゃあクリスマスプレゼントととして……」

皆「として……？」

ダイヤ「ワリオをボコボコにさせてあげる権利を上げよう…」  
ボつた事を話した

掃除係の人「イエーイー！」

それ以外の皆「いいな～」

ダイヤ「じゃあ他の人もいいよ～」

皆「イエーイー！」

因みにワリオは今縛り付けられてます

ダイヤ「嘘こぐわーー。」

「一歩引」嘘

じぱりくお待ちください

ダイヤ「 あパーティー開始だ（^ - ^）」

ペーチ「料理よー」

「嘘「……」

ピーチが持つてきた料理は見た目は豪華だが所々に黒い物体があつた

ダイヤ「いただきまーす」

皆「いただきます…」

皆は黒い物体をよけて料理を食べている（マコオはお構い無しだが）

マコオ「これ食えます?上手こなす?」

リンク「遠慮するよ…」

ダイヤ「ワコオが食べたがつても

マコオ「はー」

ワコオ「…」

ダイヤ「食えよ」

ワリオ「…」

ダイヤ「おい」

ワリオ「…」

ダイヤ「ブチッ」

その後ワリオは無理矢理料理を食べさせられました

料理を食べ終わり…

ワリオ「… (チーン)」

皆「ワリオ死んでる…」

ピーチ「メインのケーキよー( ^ - ^ )」

「…」

ダイヤ「皆一、ケーキはゼルダが作ったから安心しろ」

皆「ホッ…」

マリオ「なんで安心した?」

皆「何で?…」

ピーチ「はい」

皆「あらがとう」

ケーキを皆で切り分け…

ダイヤ「食べよつか」

皆「はーい」

ソーラー「ん…？甘いのが好きなダイヤが食べよつとして無い…？」  
危ないからやめておけ！」

パクッ

ネス「なにこれ！？」

„ପାଦାର୍ଥକାନ୍ତରିକରେ...”

ルイージ「頭いたい！」

ソニック「作者なんかしただろ」

「たんだよ（^ - ^）」  
ダイヤ「ばれた？ ケーキを作ってる途中こそリアルコールをいれ

ソニック「…（。。。）」

えー今の状況

ソニックはダイヤがケーキを食べない事から変を感じ難を逃れた

ルイージやネスなどの子供達は氣絶（ルイージは子供じゃ無いが）

女性達は顔を真っ赤にして座っている

ガノンやクッパなどのオッサンは兎に角暴れてる

マリオは裸になつて暴れてる

ソニック「マリオの事アウトすぎだろーーー！」

皆様すいません

シャドウは…

シャドウ「僕は何も感じないが…」

首を傾げながら一口ずつ食べているシャドウ

ダイヤ「究極生命体って酔わないの？ つまんないの～（ - - - ）」

シャドウ「…？」

シルバーは顔を真っ赤にして…

ソニック「Heeyシルバー大丈夫か…」

シルバー「…」

ギュ…

ソニック「え…ええええええええ！」？

なんとソニックに抱きついてしまった

ソーラー「ちゅうひ…作者ー」

ダイヤ「シルバーは酔つと抱き魔になる…と（一・一・メモメモ

ソーラー「メモつてなこで助かるーーー。」

ダイヤ「がんば（一・一・メモメモ

ソーラー「ね…ねこーーーシャドウ向とかじつけられ…」

シャドウ「僕には関係無いな

ソーラー「あ…すまん…じゃねえよ離せよーーー。」

シルバー「うるさい…」

ソーラー「あ…すまん…じゃねえよ離せよーーー。」

その後シルバーは酔いが覚めるまでソーラーを離しませんでした

次の日…

ルイージ「頭いたい…」

リュカ「ガンガンする…」

ダイヤ ソニック シャドウ以外一日酔いになってしまった

シルバー「頭が…ってか俺ケーキ食つたあと何してた?」

ダイヤ「ソニックを…」

ソニック「頼む…言わないでくれ…シルバーも思い出そうとしないでいい!」

シルバー「…?」

ダイヤ「へいへい」

そんなやり取りをみつつシャドウは軽く笑っていた



## 早めにパーティー（後書き）

なんか最近感想こないな…自分はへっぽこなんだろうか…

## シルバーの悲惨 僕もだよひソニック（前書き）

今回はシルバーとソニックが主役です 一応

シルバーの悲惨 僕もだよ。ソニック

シルバー「頭が…まだ痛む…」

ダイヤ「まだかよ」

前回のアルコール入りケーキを食べていまだに「口酔い」のシルバー  
(その他一部も続いている)

ソニック「……」

シャドウ「いまだに気にしてるのは貴様

ソニック「…だつてよ…」

マリオ「なんなんだお前ら」

ルイージ「ソニック何かあつたの?…気持ち悪…」

ダイヤ「ルイージもかよ…」

ルイージ「つてかなんなんだあのケー キは…」

ダイヤ「… あなんなんだうつな…」

シルバー「…（寝込んでます）」

シルバーは一番一口酔いが酷いです

ダイヤ「そうだ」

15分後：

ダイヤ「シルバー薬だよー」

シルバー「ありがとな作者」

「ごくごく 薬飲んでる

シルバー「な…なんだこれ！？」

ダイヤ「はやく飲め

グイッ 一気に飲ました

シルバー「…

ダイヤ「ソニックー

ソニック「なんた？」「

ダイヤ「少しシルバーの面倒見てくれないか？」

ソニック「ああ…」

マルス「作者の目が怪しい…」

アイク「だな…（・・・）ソニック頑張れ

シルバーの家

ソニック「シルバー平氣か…？」

シルバー「ん…」

ソニック「…！？」

またまたシルバーの顔が真っ赤になつてゐるしかしソニックは気づいてない…

シルバーが酔つてゐること…

別の場所

ダイヤ「誰かカメラ貸して~」

マリオ「はい」

ダイヤ「ありがとな」

ルイージ「なにとるの?」

ダイヤ「来るかい?」

二人「ああ」

ダイヤ「シャドウもな」

シャドウ「ああ」

一応言つておくがダイヤはシルバーにまたまた酒を飲ましたしかも  
強いやつ

## シルバーの家

シルバー「…」

ソニック「風引いたかシルバー！？」

全然気づかないソニック

シルバー「…ソニック」

ソニック「ん？」

シルバー「お前さ…」

ソニック「なんだ？」

シルバー「可愛いな…」  
ギュッ

ソニック「…またかあああああ…！…ってかなんで酔つてんだよお前  
！…まだ14だろ！？シルバー！？」

裏

シャドウ「酔つてこらただけだ」

ルイージ「作者」

ダイヤ「今だな」

カシヤツ

「ダイヤ、「よしひ回田の抱きこただき」

マリオ ルイージ「一回田ーー? ?」

ソニツク「シルバー！離せよ！おい！」

シルバー「ん？」

ギュウ

ソニック「離せえええ！」

仲間思いのソニック手は出せない

シルバー「」

ソニック「：（泣）」

シャドウ「ソニック死んでるな…」

ダイヤ「…」

シルバーはその後5時間抱き締めたとか（笑）

シルバーの悲惨 僕もだよゝソソーック（後書き）

えー男同士の抱き締めなどいれて誠に申し訳ありません

## ワリオのあだな

マリオ「暇だなー」

ルイージ「暇だね！」

マリオ「だからと言つてイタズラは困るが」「

## ルイージ「はは同感」

マリオ「やつにやソーックは？ ででこないなんて珍しい」

「前回のショックから立ち直つて無いんだよ因みにシルバーは一日酔い悪化シャドウはシルバーの家で酒を飲まないよう見

マリオ「なるほどな今回はお休み…」

“我好想好想你……”

二人「…」

ルイージ「暇じゃ無くなつたね」

音がしたところではファイターが集まつてた

マリオ「何してる?」

マルス「ああダイヤがちょっと黄色い太つた物体を凝らしめてるんだ」

黄色い太つた物体「違うワリオ様だ!」

ダイヤ「はいはい

黄色い太つた臭いオジサン「違つ!」

ダイヤ「これか

くモジジイ「まんますぎだ！！！そして酷いだろーーー！」

ダイヤ「うーかーーー！」

あほ「いい加減にしろーーー」の男みたいな作者ーーー！」

皆「ワリオ…」

ダイヤ「うーじでやーーー！」

シユ ドカン バキイ ゴキグチャ ピクピクポーン キラッ

リンク「後半音おかしいしワリオが星になつたーーー！」

皆「アーティオス…ワリオ…」

ダイヤ「明日から旅行いくぞーーー！」

監 「はいーー?」

ダイヤ 「ソニック達には書いておくから準備しろーー。」

監 「なんて気まぐれ」

次回旅行だ

ワリオのあだな（後書き）

ワリオファンの方すいません

旅行だ よー (前書き)

はあ

旅行だ……よー

ダイヤ「旅行だよ……」

皆「トランションひへつ……」

ダイヤ「いろいろあって……（現実で）」

皆「聞かない方がいいな……」

ダイヤ「じゃあ行こうか……」

空港

ダイヤ「行くのは南国だよ……」

マリオ「南国が楽しみだ」

ダイヤ「はいチケット……因みにシルバーとシャドウは俺と隣だそし

て帰りはソニックとビハラが…

皆「相変わらずだな…ソニックシリーズ好き…」

ワリオ「俺のが無いぞ…！」

ダイヤ「黙れ下等生物」

皆「怖え…」

そして飛行機内

シルバー「ワリオが…死にそうだ…」

シャドウ「放つておけ目が腐るぞ」

シルバー「結構言つたな…お前」

ワリオは飛行機の翼に縛り付けました

ワリオ「オワアアアア…！」

リンク「顔がヤバイな…」

ファルコ「本当に田が腐るな」

ソニック「ワリオってなんでスマブラメンバーになれたんだ?」

皆「確かに…」

ダイヤ「気にしたら負けだ…」

皆「はあ…（今回ずっとこんなテンション…）」

ダイヤ「…」

ルイージ「大変な事があつたのかな…」

ダイヤ「…（そうだよ）」

ピーチ「かわいい…」

ワリオ「オワアアアア！！！」

「アメ横でやるんだよなーー。」

「ワリオ「…なんでこんな田に…」

飛行機内がパニックになりながらも飛行機は南国に向かう…

旅行だ……よー（後書き）

少し小説押さえます……書くの……詳しきは活動報告で……

離國だ～ b バイ 面（前書き）

思いこ詰めから復活！

ルイージ「もう立ち直ったの!?」

「ダイヤ「皆様の励ましをもらつてな  
不死鳥の」」とく復活したぜ

皆「別にまだ止まってないし…不死鳥って例えが変だろ…」

「… シャドウ「あんなに思い詰めといつぱり復活か… 困る作者だな

ダイヤ「んだよ文句あんのかよー」の黒針鼠が

シャドウ「...これあつません...」

マリオ「まあ二つちの作者の方がいいがな」

皆「たしかに」

ダイヤ「じゃあホテルにチェックインしてくるだーーー」

「…………」既

シルバー「楽しみだな」

ペー<sup>チ</sup>「ええといひも」

マリオ「（シルバー殺してある……）」

シャドウ「マリオからぬ黒いオーリが……」

アイク「シルバーに手を出したら作者に殺られるぞ確実……（・・・）」

ダイヤ「あれ?」

ソニック「ビビったんだ?」

ダイヤ「なにか忘れた気がする……あーいか

皆「いやダメだろーーー！」

ダイヤ「ワリオがそんなに大事か？」

皆「分かつてんじやん…」

スネーク「まあいらないかもな」

皆「ウンウン」

ダイヤ「意見がまとまつた所で…」

皆「出発ーーー！」

ホテル

係員「どうぞ鍵です」

ダイヤ「部屋わけはゲーム別な」

皆「作者は？」

ダイヤ「もちソニック達と」

皆「聞くまでもなかつたか…」

ダイヤ「あーでもスネークとかウオツチなどの一人しかいないキャラはまとまれ」

こうして旅行が始まった…

ワリオ「俺を何とかしろー！」

作者や他のファイターはワリオの事なんぞ頭にも入ってません

これからも頑張るぞ～！！

極圖也の（繪畫也）

ワニオのやうな劇場

ダイヤ「南国には来たが暇だな……」

マリオ「ここ場所があるじやん……」

ダイヤ「どう?」

マリオ「海だよ海ー」

ダイヤ「ソニックが泳げないじやん」

マリオ「イタズラにはまつてここじやん」

ダイヤ「よし臨海ごへやー……」

ソニック「反対だー……」

シルバー「泳がなきやいいじやん」

ソニック「作者がじつとしてゐと申つか……？」

シルバー「確かに確實に」

シャドウ「海に落とされぬな」

ソニック「……はあ……」

シルバー「だからと書つていかないなんて書つたら……」

ソニック「殺られる……」

海

ソニックは縛り付けて連れてきました

ソニック「作者頼むから海にだけは落とさないでくれ……」

ダイヤ「ええ～」

ソニック「頼むからー..」

ダイヤ「じゃあ今口<sup>まく</sup>ソニックの隣で寝るから」

ソニック「..はい」

そして海で遊んで.. 一部流血あり（何故！？）

ダイヤ「楽しかった～（イタズラできなかつた～）」

皆「ホテルに帰つて休もう～（イタズラされなくてよかつた～）」

リュカ「つてかさ～」

ネス「なに？」

リュカ「あのアホは放つておくの？」

そう言つていまだに飛行機の翼に縛り付けられているアホ（ワリオ）  
を指差す

ネス「あ・そういうえばいたんだ」

リュカ「僕も今思い出した」

ファルコ「あの状態見るのも飽きたな…」

フォックス「作者ワリオおうせまつ？」

ダイヤ「なんで？」

フォックス「ああしてこうすれば…まだいいだろ？」

ダイヤ「たしかに（^\_^;）」

ダイヤ「アイク～

アイク「なんだ？」

ダイヤ「耳かして」

アイク「ん」

ダイヤ「ああして…」  
「うひしてほしいんだ」

アイク「いいだ」

ダイヤ「じゃあはいスマッシュボール」

アイク「こつこつ

ダイヤ「嘘もいーー」

笛「～解ー」

アイク「はあ……」

いきなりアイクが最後の切り札を使ってワリオを切り刻む…そして…

アイク「ハア……」

ワリオ急降下……！…そしてそこには…

マルス「はあ……」

マルスがちょうどいいタイミングで最後の切り札をあててワリオをぶつ飛ばして…

リンク トウーン「ヤアッ……」

ワリオが吹つ飛んだ先にいたリンクとトウーンが最後の切り札で切り刻み…

リンク　トウーン「はあーー！」

吹っ飛ばし…

ガノン「魔神拳！」

ガノンがぶつ飛ばして…

ダイヤ「皆こまだーーー！」

皆「おおーーーー！」

皆がスマートボムを投げまくら…

ネス「いくよ

リュカ「うそーーー！」

ネス　リュカ「PKスターストームーーー！」

流星がワリオを撃つが…

ダイヤ「こっちにも被害が…！」

皆にも被害が及んだあと…

ワリオ「…（チーン）」

ワリオは灰になつた…

ワリオ「なつてないわ！」

ダイヤ「生きてた（…チッ）

そしてホテルに帰つていった（ワリオは野宿）

並んでから（前書き）

マスター「ダイヤ差し入れが届いたぞ」

ダイヤ「おお……皆を一分以内に集めよつー。」

マスター「（キツくないか？）」

今は皆各自部屋で休んでいます

そこへ…

ピンポンパンボーン

皆「なんだよいきなり…」

ダイヤ「え…今から二階の集会場に一分以内に来てください。来ないと殺すか野宿だよー」

皆「何い…」

皆さん急いで二階の集会場に行きましたそれはもう凄い速さで（笑）

マリオ「ゼエ…ゼエ…」

マルス「はあ…はあ…」

ダイヤ「一分ピッタリ よくきたね！一つてかなんで息切れしてる  
？」

監「当たり前だろーーー」

ダイヤ「ふーん…ソニックとシャドウとシルバーは余裕ぽかっただけ  
ど？」

マリオ「そりゃあソニック シャドウは音速だしシルバーは超能力  
でワープ出来るしーーー」

ダイヤ「言訳にすぎないなあ」

マルス「ワリオは？」

ダイヤ「やーーー」

ワリオはボロボロ状態で立っていた前回参照（笑）

ルイージ「どうしたのこきなり集めて」

ダイヤ「たった今『youku』さんとしりたんから差し入れが届い

た

リュカ「何が届いたの？」

ダイヤ「ryōukiさんから#ピクミンパイでしらむんから#高級シュークリームだ」

皆「イエーイ

ダイヤ「はい並んで配るからー！」

配り終え…

ファルコ「なあ作者…」

ダイヤ「ん？」

ファルコ「なんでワリオにもあげるんだ？」

「ナニ（ナニ）」  
「別にいいじゃんか（。）」  
「イヤヤ」

「何があるな？」

サムス「2つとも美味しいじゃない！」

ルカリオ「良くできてる」

オリマー「私もいつか作ってみたい…」

ワリオ「ふーん…まあ折角だし食つてやるか」

パクッ ピクミンパイを食べました

ダイヤ「どうしたワリオー（ウケル）」

「（そりやあね）大変だしさんからいただいた高級シュークリームを食べるんだお前にシュークリームは2個あるんだ！…」

ワリオ「よし！」

パクッ 高級シュークリームを一個食べた

ダイヤ「（いい氣味だ）（いきなり激甘はまずかつたか  
れなら平氣だよ」ワリオ

ワリオ「口が逝つてしまつ——」

皆の心の声「逝つてしまえ」

パクツ シュークリーム食べました

ワリオ「… サヨウナラ」

皆「逝つてらつしゃい（黒笑）」

ダイヤ「まだ残つてゐよ～」

グイツ 余つた分押し込んでいる

ワリオ「…」

その後ワリオは動かなかつた…

そして皆は横たわつたワリオなんか気にせず差し入れを美味しいい  
ただきました

ダイヤ「じらさんのお高級シュークリームはただではもうござらないな

…一個確か1000000万ぐらいだよな…そしてryoukisanのピクミンパイもただなんて気が重い」

皆「確かに」

ダイヤ「起きろクソ…」

グシャ 腹を蹴った

ワリオ「何だよ…」

ダイヤ「はいこれ

ワリオに渡されたのは領収書しかもかなりの金額（ryoukisanのピクミンパイの分も入つてます）

ワリオ「ふざけるな…」

ダイヤ「…」チャキッ 銃を構えた

『(。 。)』

バキュウンバキュウン！！

ワリオ「払います！」

ダイヤ「ようじー」

皆「作者つて怖え」

ダイヤ「マスター捨ててきて」

## 「おひる」マスター」

マスターはワリオ掴み持つていった

ソーラー「そろそろ部屋に戻るか」

ダイヤ「せうだなでもまずはお礼を言おつ

皆「ソヨガ・カセをしきりさんありがとうございました!」

ダイヤ「さあ部屋に戻つて休もう(ソーラーの隣)」

皆「ストーカーか」

ダイヤ「ん? なんだい? (黒笑)」

皆「あ・いえなんでも」

そして畠は部屋に戻つていつた

追記 ワリオは差し入れを食べたあと二ヶ月味覚がおかしくなつたそうです (ざまあみる)

ありがとうございました

よければ感想下さる

## 南国で大晦日

マリオ「南国で大晦日か…」

ルイージ「いつもと違つて楽しみだね

ピーチ「年越しあわせ作つてあげる

マリオ以外「結構です」

マリオ「別にいいじゃんかよ～」

マリオ以外の皆「つるわこ」

マリオ「チヒッ

ダイヤ「年越しあわせ無しだ…！」

皆「なんで？」

ダイヤ「とにかく無しだ

シャドウ「嫌いなんだろ」

ダイヤ「いや食えるが好きではない」

シルバー「自分勝手だな…」

ダイヤ「ん? よく聞こえなかつた」

シルバー「あ…いえなんでも…」

ダイヤ「来年はやろうかな~」

皆「何を?」

ダイヤ「逃走中」

皆「何故やると聞こきらない?」

ダイヤ「エリアとか時間とか残り人数賞金とか面倒なものばかりだ

しね

アイク「別にやつてもいいんじゃないか」

ダイヤ「歸やりたいのか?」

皆「一応」

ダイヤ「面倒臭いな……」

「」から小声です

マリオ「ソニック、シャドウ、シルバー行け!」

ソニック「はあ!?

シャドウ「なんで僕達が……」

シルバー「別にやうなぐでモ……」

ルイージ「他のどこのでまよくやつてるじやん

シルバー「それが何なんだ?」

サムス「私達もやりたいな」と…」

ソニック「無理矢理やらせたら俺達死ぬかもだし…」

メタナイト「平氣だきにするな」

ソニック「無理だろ！」

ピーチ「作者はあなた達は殺すまではしないわよ 半殺しですむわ

」

針鼠3人組「半殺しでも困る…」

マルス「シルバーが思ひきり作者に甘えればいいじゃん」

シルバー「おいおいおい…なんだよそれは…」

マリオ「いやソニックとシャドウが甘えてるのはちよつとやつこか  
ら…」

シルバー「俺がいけと…？」

皆「うん」

シルバー「ふざけるな！」

シャドウ「いいから行け」

シルバー「待て！待て！」

ドンッ 皆がシルバーを押した音

シルバー「うわっー！」

ダイヤ「シルバーどうしたいきなり」

シルバー「あーえっと…」

皆「頑張れ！」

シルバー「逃走中やつてくれ……頼む……」

ダイヤ「え、シルバーのたのみと言えど……」

シルバー「皆やりたがってるし……」

ダイヤ「どうしてもか?」

シルバー「ああ

ダイヤ「やだ」

シルバー「何故に?頼むよー。(ここで諦めたら皆に殺されるー。)」

ダイヤ「え?」

シルバー「いいじゃんかよ!…な?」

作者に近づいてる

ダイヤ「う?」

「マリオ「結構出来るじゃん……」

リュカ「そうだね」

シルバー「な?いいだろ?」 セラに近づこうとする

ダイヤ「わかつたよ……その内やるから……」

皆「イエーイー!」

ダイヤ「はあ……」

次回逃走中が始まる!!

皆「次回から!?」

ダイヤ「うん ホテル貸しきるから頑張れ」

皆「本当に頑張れだ」

南国で大晦日（後書き）

次回から逃走中スタート

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1962z/>

---

スマプラパラダイス！

2011年12月31日18時54分発行